

平成 25 年 8 月 26 日



しほり
森づくり集団「葉」事務局通信 Vol. 59 号

【今月のお知らせ】

【今月の活動報告】

【今月のレポート】

【次回の活動予定】

【お知らせ/募集】

【編集後記】



シロオニタケ (テングタケ科) 2013.8.4 所沢下富

【今月のお知らせ】

8月1日に、第2回ふじみ野市子ども大学が文京学院大学で行われ、参加してきました。講師は木村学先生(文京学院大学)。参加者は小学4年生から6年生まで約50名でした。

今日のテーマは『自然と遊びながら学ぼう 木琴づくり』。用意された木はエゴ、コナラ等。木の種類、木やおがくずの香りなどの説明、そして作業についての注意があり、各10名ずつ5グループに分かれて作成にかかりました。初めのうちはとまどいが見られましたが、のこぎりの使い方にも慣れ、最後の音合わせに苦勞をしていましたが見事に完成できました。この木琴は大学の構内に展示されるそうです。

(報告：緑川)

【今月の活動報告】

8月4日（日） 10:00 ~

下富第2フィールド

参加者 / 豊島、渡部、北村、吉田ひ、吉田あ、（敬称略）

活動担当者 / 小林

7月に続き今年2回目の下刈り作業を行いました。第2フィールドの下刈りも今回でほぼ終了できました。（右下写真）

作業場所の中に2か所のオオスズメバチの巣があり、刺激を与えないように作業しました。土中の空洞に巣がありました。巣入口には、見張り役の働き蜂が見張っていますが、出入りする蜂の数は少なく小さなコロニーと思われます。晩秋に入り活動が停止したら、中を開いてみたいと思います。（左下写真）



フィールド内には、所々にシロオニタケ・キタマゴタケ（右下写真）・コテングタケモドキ（？）（左下写真）など、テングタケ科のキノコが多く見られました。これらのキノコは、コナラなどの雑木林の樹木と共生関係にあると云われています。キノコが沢山あるということは、森も健全な状態であるということかもしれません。



【今月のレポート】

去る7月15日に、ふじみ野市『市民憩の森』のオープニング式典が開かれました。当日は、高畑ふじみ野市長や福井聖路加看護学園理事長など来賓の方々やたくさんの市民の皆様が参加されました。この中で、代表理事の土金さんが「憩の森の自然について」の演題でお話ししたものを掲載したいと思います。（文責：事務局通信担当）



〈式典のオープニングカット〉

『憩の森』の自然について

『栞』代表理事 土金徳太郎

只今ご紹介にあずかりました、森づくり集団「栞」の土金でございます。本日は、『憩の森』オープニングおめでとうございます。今、司会者の方からご紹介いただきましたように、私たちは三富の雑木林いわゆる『くぬぎ山』と呼ばれておりますが、そこで十数年森林保全活動をしているボランティアグループでございます。

私どもの事務局がここふじみ野市にある関係で、『環境フェア』に参加してまいりまして、そういうご縁でこの『憩の森』に関わることになりました。只今、ここの自然調査というお話がありましたが、簡単にこの森についてお話しをしてみたいと思います。

今日も気温が35度になるとの事ですが、皆さん森の中はどうでしょうか？

（涼しいとの会場からの声）

皆様ご存知と思いますが、森林は太陽からの日射や地面からの放射を遮ります。そして、樹木の葉からは水蒸気が放出されます。それによってそよ風が吹き込んできまして爽やかに感じます。植物は二酸化炭素を吸収して酸素を放出しますから、そのことによって身も心も軽やかになり、これが『森林浴効果』となるわけです。

皆様、耳を澄ませてもらえますか？

どんな音が聞こえますか？風の音や鳥や蝉の声も聞こえます。ですから、この森は人間だけの場所ではなく、鳥や昆虫などの棲家でもあるわけです。

上をご覧ください。高い木がたくさんあります。ゆっくりと下の方へ目を移していただくと低い木や草がありません。老齢な樹木ばかりで若い樹木がありません。人間社会と同じで、若い人や子どもがいない状態です。やはり、この森も世代交代が必要だと思います。そのことは、二酸化炭素の固定化にも繋がり、植物の量と種類が増えてくれば、動物や昆虫なども増えてくると思います。

先日この森の調査をしたのですが、森の縁に絶滅が危惧されているキンランやギンランがありました。これらは適度な明るさが確保されているところに生えるので、環境が変化しないように保全することが望めます。森の外の日が当たるところには、オオブタクサなどの外来植物が多く生えています。これらは在来の植物を追い払ってしまうので、駆除することが必要です。

次に、私たちの活動についてご紹介いたします。三富の森は当初はこのように暗い森でした。(パネルを提示して説明)

枯れた木やいらぬ木を伐採してササなどを刈り、明るい森にしてきました。すると、土の中に眠っていたタネや鳥が運んできたタネが芽生え、フデリンドウ・シュンラン・キンラン・ギンランなど植物の種類も増えてきました。設置した巣箱にはシジュウカラがやってきて営巣したり、また、昆虫観察会でも多くの虫の鳴き声を確認できました。

ここ『憩の森』は、三富の雑木林とは環境が違います。枯れた木やいらぬ木を伐採して、少し明るい森にしたらどうでしょうか？散策ゾーンや保全ゾーンに人があまり入らないようにすることにより、土の中に眠っているタネが芽生え、植物の種類が増えてくるかもしれません。この森の維持管理活動を通して、多くの植物や動物が生息できる素晴らしい森に育てていただけたらと思います。



〈土金さんのスピーチ〉

【次回の活動予定】

9月1日（日）10:00～
下富フィールド

第2．3フィールドで8月に続き、下刈り作業を実施します。
集合場所は、第1フィールドです。
熱中症・防虫対策のうえ、ご参加ください。

参加希望者はメンバーメールにてお知らせください。

【お知らせ/募集】

参加者募集のお知らせ

森づくり集団「^{しほり}栞」は、毎月第1週日曜日に所沢下富のくぬぎ山で里山の手入れをおこなっています。

会員のほとんどが森林インストラクターの資格を取得し、初めての方には危険防止のための注意事項、作業方法を丁寧にご指導いたします。

私たちは10年以上にわたり目的に応じた森の手入れをして、経過を観察し新しい発見、新しい取り組みを楽しんでいます。

また、植物の観察会、子供のための観察会、森の手入れ研修会などを企画計画していますので、興味のある方はぜひご参加下さい。

連絡先は下記事務局まで

【編集後記】

今年還暦になる私に今も、昔に聞いた怪談噺が耳朶に残っています。私の中では、「オカネさん」という名の母親が登場して、自分の子を喪ってしまうという怖いものでした。

最近、その記憶のもととなる正式な物語を読みました。

それは、小泉八雲の『幽霊滝の伝説』でした。いつも、近くにある区立図書館に通っておりまして、小泉八雲を一度読んでみようかと思い、そして借りてきたものの中に、この怪談噺がありました。

この噺を私に聞かせてくれたのが、母であったか長姉であったかは覚えていません。小さい子どもが怖いながらも、なんどもせがんで聞いていたのでしょう。

その母も亡くなってから今年で13回忌となり、7月には兄弟全員が久しぶりに集まりました。

これからの季節、秋の深まりを少しずつ感じます。季節の変わり目には体調も崩しがちになります。皆さん、ぜひご留意してお過ごし下さい。

植物の葉

今回はお休みです。

あ

森づくり集団「しほり葉」事務局

アドレス info@mori-shiori.sakura.ne.jp

ホームページ <http://mori-shiori.sakura.ne.jp/>

事務局 緑川睦子